

# 九州の中枢的機能を發揮して

村田 九州縦貫道が、出来るという段階で、道路網の整備をはじめ、空港も整備され、交通運輸の面では、九州における交通運輸の基地になるといふことが現実につかめるようになった。ここで、熊本があらゆる分野での中枢的都市圏を作ろうではないか、というようなことを考えたわけですが、可能性があるかどうかということですが、私は、可能性は充分あると考えます。

ただ、例えば、経済の面で、福岡を凌駕し得るかどうか、という点で批判も出てくると思います。然し、今のところ私たちは、そこまでは考えていないので、すよ。戦略的な段階として、先ずは、交通網の中心都市とする、ということに

それから今、広報課長がおっしゃったように、かつては九州における行政の中心地ではあったわけですね。そういう点から考えると、福岡と熊本を比較した場合です、国の出先官庁など数からいって大体五分五分なんです。しかし実際の行政の面からいって熊本の方がウエイトが高いと思うんですね。ですから、もっと熊本が発展をしていくと、その面では完全に九州における行政の機能を占めてしまうことにはならないし、

熊本は九州における行政の中心地としてやはり発展する可能性は充分あると思います。

## 学園都市の構想も

それから観光面では、只今、商工水産部長がおっしゃったように、私は観光立県というか、そういうことを標榜してもいいし、又教育面からいっても、九州の中心に位置するといふ地理的な点からいくと、熊本に九州の中心となる学園都市をつくり上ぐるということは、やろうと思えば充分できることです。

ただ、これも財政的な面からいろいろな制約を受けるので、なかなか困難ではあるわけですが、やろうと思えばできないことはない。

私の方では、特長ある広域都市圏を作り上げたいと考えています。ですから先程も申しましたように、「国民の森」ができた、江津湖の開発をしたり、或は、阿蘇、天草を生かした素晴らしい教育環境を作りたい、そういうことを理想として考えています。ですから、こうして分析して考えてみると非常に明るいと思えますよ。

## 白石 そうですね。

——経済の面ではいかがでしょうか。

## 商社や銀行の

誘致体制も必要……

河端 出先官庁の数では、博多と熊本とあまり変わらないというお話が出ましたが、変っているのは、例えば、大手商社の出先など経済的な出先機関が少ないということですね。

それで、要求すれば、もう少し基盤整備が進み、あるいは、産業が発展してくる段階では、今まで、熊本県では誘致という工場と決まっていたのだけれども、商社、などもことしあたりからほとんど誘致するような体制に持って行かねばならないと思っています。

——熊本県の人は、人間の能力には非常に優れているけれども、近代的な資本装備を整えるなどといった点になると、非常に欠けていたと思います。そういうのができ上りますと、これはもう政治、経済、行政、それに観光でも、農業面でも、九州の中心となり、しかも、地理的条件が九州の中心であり、交通の中心となるということになれば、まさに九州の中枢的機能を發揮できるということになるわけですね。

村田 それはもう、可能性ありと、思いますよ。一九六七年は、中枢的機能を充

# 文学・熊本とその周辺

(敬称略)

山口白陽

——峠の茶屋——



熊本市とその周辺の文学という課題であるが、これを遠くさかのぼると平女期の歌人檜垣女あたりまでいかねばなるまい。しかし彼女はまだ現代が隔たっていて、今の人には関心が薄く若い人など檜垣とは檜の生垣位に思ふかも知れない。せいぜいのところ彼女がいわゆる才色双絶の女性(或は白拍子ともいう)で時の国司藤原元輔(清少納言の父)が京へ帰る時別れを惜んで贈ったという。白川のその水乾ちりたりたたん時にそ君を思ひ忘れん

という歌、彼女が日参したと伝えられる岩戸観音、蓮台寺にある檜垣の塔などを思い浮べるに過ぎまい。それはそれとして以来一千余年、肥後の歌人に出色なものは真に寥々わずかに細川幽斎と宗不早を挙げ得る程度にとどまるのではないか。

その幽斎も、歌人というより歌学者といた方がよくそれが水前寺に現存する「古今伝授」の間につながっていることは人の知るところである。

そのゆかり深い水前寺公園に、宗不早の歌碑があることは周知のとおり。ふる里にならば身を寄する家ありて春辺をおれば鶯の鳴く

というのがその歌である。不早は市内上通町の産、狷介弧高の性格から世にいれられず、不遇な半世を放浪の中に送った後、山野にその姿を消したが、彼の歌集「筑摩鍋」や「荔枝」に収められた作品

は、第一級の歌人たる其縁を十分にうなづかせるものがある。

現歌壇には歌学者で歌人の上田英夫をはじめ、「南風」の蒲池正紀「椎の木」の安永信一郎、露子文娘、「人間の」の内田守人、「炎歴」の荒木正治らがそれぞれ歌壇を主宰しているほか、西村光弘、黒木伝松、滝本悠雅、岡島寛一らの古豪、昨年の熊日文学賞を得た沼川良太郎、今年の受賞者宮川久子などを挙げることができよう。

歌壇に次いで俳壇はどうか、これについては夏目漱石の影響を疎外することはできない。

彼が高に着任したのは明治二十九年(一八九六)で、以来三十三年の外遊まで足かけ五年滞留したが、当時熊本には沢川玄耳(第六師団法官部理事)を始め、地松迂巷、広瀬楚雨、長野蘇南その他の俳人がいて、紫雲吟社という結社をつくり、俳壇は空前の活気を呈した。子規と親交のあった俳人漱石はそのリーダー格で在熊中一千句前後を作っているのもその一端が察せられる。

すずしやや裏は鉦うつ光琳寺湧くからに流るるからに春の水(水前寺)

福宜の子の烏帽子つたり藤の花(藤崎宮)

などはそれぞれの背景を髣髴たらしめるといえよう。現俳壇では機関誌「東火」に拠る句歴

分發揮できるための基礎づくりに邁進する年だといえるでしょうね。

——どうもありがとうございます。

(文責・広報課)

## きれいな選挙で豊かな郷土をつくらう!

■選挙は、政治に参加するただ一つの権利です。

熊本県選挙管理委員会

五十年の後藤是山、「阿蘇」経営の阿部小壺、田辺夕陽斜「水葱」主宰の有働木母寺をはじめ幾つかのグループがそれぞれ句誌を出している。

中央にあって日本的に活躍している「風花」の中村汀女、句誌「みそささい」の村山占魚があることは周知のとおりである。

出ても見よ触れんばかりの春の月

津の寄する渚や阿蘇は雪 汀女

後の句は彼女の故郷江國湖畔の作であるこというまでもない。書き落したが、異色の俳人種田山頭火を忘れてはならない。彼は山口県防府の生れだが大正五年三五才の頃熊本に来て、下通町で額縁店「雅楽多」を開いた。萩原井泉水の「層雲」に属し非定型の作品を発表していたが、後出家して托鉢行脚の生活を続け、昭和十五年松山市の一草庵に逝いた。

鉄鉢の中にも霞松風に明け暮れの鐘ついて

まつたく雲がない笠をぬぎ

などの句はそうした生活の中から生れた

以上先ず歌と俳句を片づけたが、何と

いっても文学の本流は小説である。ところが同じペンでも、新聞記者の産地としては全国一を謳われる熊本が、高名な作家に乏しいのはどうしたものだろう。ためらいなく指を屈するのは故人の徳富蘆花、徳永直、現存の木下順二くらいに過ぎぬのではないか。